

キリウジ及び粟のメイガに対する新農薬の効果について

是石 鞏・野垣 一之
熊本県農業試験場

KORISHI, K. & NOGAKI, K. On the Lethal Effects of
Chlordans, Foridol E605 and E. P. N 300 to Rice Crane
Fly and European Corn Borer

切蛆及び粟の螟蛾に対し滲透性殺虫剤の効果について試験し若干の成績を得たので、その概要を報告する。

(二) 供試薬剤の種類 濃度及び散布量

ホリドールE 605 乳剤 1,000倍 坪 2.5合
ニツカリント水和剤 1,000倍 〃
ベントリン乳剤 〃 〃
ピレオール乳剤 〃 〃

I 切蛆に対する薬剤防除試験

- (イ) 試験月日及び場所 1952年6月6日熊本県上益城郡木山町
(ロ) 品種並に播種月日 宝. 5月20日前後
(ハ) 薬剤散布月日 6月6日当日調査

(ホ) 試験方法及び成績

揚床苗代の1畦1区とし1区面積3坪3ブロックの乱塊法とした。

1. 薬剤散布 30分後調査試験区の成績

第 1 表

区 番 号	ブ ロ ッ ク									苦 悶 幼 虫 数 率 平均	順 位
	I			II			III				
調査事項	潜 生 幼 虫 数	土 存 幼 虫 数	苦 悶 幼 虫 数 率 %	潜 生 幼 虫 数	土 存 幼 虫 数	苦 悶 幼 虫 数 率 %	潜 生 幼 虫 数	土 存 幼 虫 数	苦 悶 幼 虫 数 率 %		
ホリドール乳剤 1,000倍	0	42	100	0	27	100	7	23	77	93	1
ニツカリント 1,000倍	7	7	50	10	12	52	4	8	63	55	4
ベントリン 1,000倍	2	2	50	5	12	71	6	15	71	69	3
ピレオール 1,000倍	3	49	95	4	13	77	5	7	58	76	2

備 考 1. 苦悶幼虫数は散布後 30 分間目に表土に現われ苦悶せる幼虫数。

2. 潜土生存幼虫数は苦悶幼虫を採集後更にピレオール 400 倍液を坪当 2.5 合散布し、30 分後に表土に現われた虫数を潜土生存幼虫数とした。

(ハ) 成績概要

も低かつた。

1. ホリドール乳剤散布区が苦悶幼虫率が最も高く
ピレオール乳剤区がこれに次ぎ、ニツカリント区が最

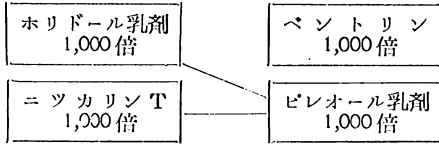
2. 薬剤散布後 2 時間目調査試験区の成績

第 2 表

区 番 号	ブ ロ ッ ク									死 虫 数 率	順 位
	I			II			III				
調査事項	潜 生 幼 虫 数	土 存 幼 虫 数	死 虫 数 率 %	潜 生 幼 虫 数	土 存 幼 虫 数	死 虫 数 率 %	潜 生 幼 虫 数	土 存 幼 虫 数	死 虫 数 率 %		
ホリドール乳剤 1,000倍	0	28	100	4	24	86	1	20	95	93.6	1
ニツカリント 1,000倍	0	2	100	2	17	88	2	15	88	92.0	3
ベントリン 1,000倍	1	11	91	0	10	100	1	8	89	93.0	2
ピレオール 1,000倍	12	10	45	15	10	40	10	12	54	46.0	4

備 考 1. 死虫数及潜土生存幼虫数調査は第1表の備考に準ず。

考察 成績より死虫率を Bliss の転換を行つて分散分析した結果処理項に高い有意差が認められたので処理間の差の検定を行つた所、次の有意差の検定図が得られた。



—は1%水準で有意

以上の結果からホリドール乳剤 1,000 倍、ベントリン乳剤 1,000 倍及びニツカリンT 1,000 倍は共に結果が大でピレオール乳剤 1,000 倍は効果は充分でないと云い得る。尚、葉害は各区において認められなかつた。

Ⅱ 玉蜀黍 粟の螟蛾第2化期の幼虫喰入防止試験

イ. 試験方法

阿蘇郡内牧町阿蘇寒冷地試験地で、玉蜀黍 品種中玉 5月28日播種のものにつき試験を行つた。2化期の粟の螟蛾の最盛期は平年と大差なく、発蛾量は平年より少かつた。試験区は1区6坪 3区制とした。

試験区の種類

第 3 表

	1	2	3	4
薬剤名	ホリドール	ホリドール	ホリドール	EPN300
形態	乳 剤	乳 剤	粉 剤	水和剤
濃 度	1,000倍	2,000倍	1.5%	1,500倍
撒布量 (反当)	1.5石	1.5石	4.0kg	1.5石
回数	8月5日)2 8月11日)回	〃	〃	〃

薬剤撒布時期 発蛾最盛期8月5日に第1回撒布、第2回8月11日に撒布被害茎及び在虫数調査は8月18日各区より任意に20茎を抜取り、各茎を割り調査した。

ロ. 試験成績

被害茎数及び在虫数

第 4 表

区 別	調査 査数	被害 害数	喰害 入率	喰害 入数	喰幼 虫 入数	幼 虫		
						生	死	
無 処 理 区	1	15	3		3	10	10	0
	2	15	2		2	2	2	0
	3	15	5		1	1	1	0
	合計	45	10	22.2	6	13	13	0
ホリドール 粉 1.5%	1	20	1		1	1	0	1
	2	20	2		0	1	0	0
	3	20	1		1	0	0	2
	合計	60	4	6.7	2	2	0	3
ホリドール 乳剤 1,000倍	1	20	1		0	3	0	0
	2	20	0		0	0	0	0
	3	20	2		0	0	0	0
	合計	60	3	5.0	0	0	0	0
ホリドール 乳剤	1	20	1		0	0	0	0
	2	20	1		0	0	0	0
	3	20	0		0	0	0	0
	合計	60	2	3.3	0	0	0	0
E P N	1	20	2		0	0	0	0
	2	20	2		0	0	0	0
	3	20	0		0	0	0	0
	合計	60	4	6.7	0	0	0	0

ハ. 成績概要

1. ホリドール、EPN 300を粟の螟蛾第2化期の発蛾最盛期に撒布することにより、被害を減少することが出来る。

2. ホリドール乳剤撒布が喰入防止に最も有効で、ホリドール粉剤、EPN 300がこれに次ぎいづれも実用価値があるように認められた。

3. 薬剤撒布により玉蜀黍の生育には特に影響は認めなかつた。